

兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 **1**



「神戸ふれあいフェスティバル」(神戸市メリケンパーク、2011年10月)。私たち生協をはじめ、兵庫県下の各協同組合のブースも、たくさんの人でにぎわいました。また、今年は「2012国際協同組合年」を迎えます。



兵庫県生活協同組合連合会 会長理事

本田 英一
(ほんだ・えいいち)



大規模災害の備えと 国際協同組合年の取り組み

明けましておめでとございます。東日本大震災、福島原発事故、と昨年は本当に大変な年でした。あらためて被災された地域の皆様に、お見舞い申し上げます。今後とも、息の長い被災地支援に取り組んでいきたいと思っておりますが、今年は、それに加えて「私たち自身、大規模災害の備えは大丈夫か」の検討が必要と考えています。17年前の阪神・淡路大震災で、私たちは大きな被害を受け、復旧・復興に取り組んできましたが、「あの時に策定した災害マニュアルは、定期的にメンテナンスできているか」、「今回の震災で繰り返し言われた『想定外』といったレベルに止まっていないか」といったことです。マニュアルの確認もさることながら、あの震災を経験した役員が、すでに多くリタイアしていることから、マニュアルには表現されていないが重要なノウハウがきちんと次世代に伝承されているか、といったことも検証のポイントになると思います。多くの会員生協でも、取り組んでいただけだと思います。

また、1月12日の「キックオフ大会」を皮切りに「国際協同組合年」がスタートします。「それぞれの違いで

はなく、共有できる価値観に着目して事業や活動をすすめる、競争や対立ではなく協同の関係を築く」という協同組合の基本精神が、グローバル化する世界での健全な社会づくりに有効、と期待されているのです。少子高齢化や財政赤字による国民の中での格差拡大、欧州を震源にした世界的金融危機の再発懸念など、私たちの社会は今や未体験ゾーンを突きすすんでいると言えます。この時期、私たち協同組合人は、あらためて自らの存在意義を世界に通用する普遍的価値に求め、一方で、日常の事業や活動の取り組みでは、他に流されることなく自らの判断とペースで一歩一歩進めていく、という姿勢が重要だと思います。11月には、ICAAP（国際協同組合同盟アジア太平洋地域）総会が神戸で開催されます。これを機に、各会員生協が「あらためて生協運動の原点に立ち返り、自らの組織、事業、活動のありようを再点検する」ことで、「国際協同組合年」という国際的な運動に参加するとともに、この地で生協運動をさらに発展させる取り組みにつないでいただければと思います。

CONTENTS

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 2. 想点 3. 会員生協・新年の抱負 14. 第3回理事会 報告 15. 単協通信
生活協同組合コープこうべ／生活協同組合自然派兵庫
甲南女子大学生協同組合／尼崎医療生活協同組合
姫路医療生活協同組合／ひまわり医療生活協同組合 | <ul style="list-style-type: none"> 18. 協同組合のかけ橋 19. 兵庫県のページ 20. 「ひょうご消費者セミナー2011」のご案内／
県連日誌／編集後記／お詫び |
|---|---|

2012年 今年の抱負

協同の力を発揮して



生活協同組合コープこうべ
理事
新保雅子

新年あけましておめでとうございます。
昨年は東日本大震災、また福島原発事故と大きな災害から始まり、日本がひとつになった年ではなかったかと思えます。多くの組合員さんと共に協同の力を発揮できたのではないのでしょうか。

コープこうべでは「商品を真ん中に」と色々な場面でプライベートブランド「コープス」「フードプラン」を紹介してまいりました。昨年から開発商品兵庫県産「ひょうご発」は75品目になり、多くの組合員さんにご利用いただいております。

組合員活動では「学んで、伝えて、つながって」をテーマに組合員同士だけでなく、幼稚園や小・中学校、自治会や婦人会といった地域とのつながり、また行政とのつながりを強めることで、地域で高齢者を見守り、地域で子どもを育てるという町づくり・人づくりを進めていきたいと考えています。

震災後社会環境が大きく変わり、特にエネルギー問題や放射能による食の安全は私たちの生活に大いに関わってきます。エネルギー問題では一人ひとりが持続できる暮らしの見直しが課題で、組合員さんと知恵をしぼり暮らし方を検討していきます。食の安全・安心、放射能問題は不安や心配を払拭し、多くの情報から正しい判断ができるよう学習会やリスクコミュニケーションを進めてまいります。

組合員活動の原点「家庭会」でも、「学習したことは二人の人に伝えましょう」と語られています。今年度も、組合員さんとのコミュニケーションの場を多く持ち「見える化」を心がけたいと思っています。

頑張ろう・佐曾利生協



佐曾利消費生活協同組合
理事長
福本昭夫

新年明けましておめでとうございます。
先ずは、昨年3月11日東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。

佐曾利消費生活協同組合におきましては、昨年創立50周年を迎える記念の年となりました。当時は74戸の組合員の方々が頻りに利用され、生協も活気に溢れておりました。しかし、時代の変遷により利用者も減少し、今日では運営にも苦慮しているところです。そこで今一度活気を取り戻そうと、創立50周年記念イベントを企画し、3つの事業を行いました。ひとつは10月上旬に宝塚市山本地区で開催されている「植木まつり」に参加し、佐曾利産新米の販売。2つ目は、当地区佐曾利園芸組合が毎年10月中旬に開催されている「花まつり」にも参加。もちつき（即売）や松茸ごはん・うどん等を販売し、いずれも成果があったと思っております。そして3つ目は、組合員の皆様方にこれからも生協を活気づけて戴けるよう、また、引き続きご理解とご協力をいただけるよう日帰りバスツアーをして親睦を図りました。

今後も、当生協の存続を堅持し、組合員の皆様方のニーズに応えながら頑張っていく覚悟でございますので、皆様方の応援をよろしくお願い申し上げます。



生活クラブ
生活協同組合都市生活
専務理事
角田 学

あらためて中長期的ビジョンづくり

新たな年を迎え、お喜び申し上げます。

昨年は、各支部で「14000人のほっとコミュニケーション」活動に取り組み、87ヶ所・のべ1500名近くが参加する大きな展開となりました。私たちが取り組む食や環境にかかわるさまざまな活動を知り、新しい消費材を実際に見、試食し、牛乳やお米の登録利用を薦めたりと組合員どうしの新たなコミュニケーション作りが大きくなります。また、生活クラブ都市生活がどういう生協なのか、協同組合として大事にしていることは何かを多くの組合員と共有することができました。

事業的には厳しい状況がありますが、組合員の中に「わたしの生協」についての理解と自信を確固としたものにし、そうした組合員を土台に回復を目指しています。

その意味からも、今年、生活クラブ都市生活としての中長期的ビジョンについて組合員に提起し、おおぜいの参加のもとにまとめていきます。その議論を通して、あらためてこれまでの取り組みの意味を共有し、正面から生活クラブ都市生活の事業と運動を地域に問いかけて、共感と参加を広げてまいります。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事
西村明彦

原発事故をきつかけとして

あけましておめでとうございます。

昨年3月の東日本大震災では2万人に近い被害者と今に至るも復興のめどさえたない広大な被災地域が発生しました。そのような状況で大きな救いだったのは生協間や生協を通じた組合員同士の助け合いが機能したこと。被災地域・生産者への募金や支援助物資の輸送、共済給付活動は生協という母体があったからこそ効率的に行動できたと考えます。

一方、救いがたい気持ちにさせられたのは福島原発事故です。福島や周辺地域で永年生産に励んでこられた農家や漁師の想いは想像することもできません。

昨年私たちは、声をあげる「福島のお母さん」の代表である佐藤幸子さんの講演会、そして原発の問題を考える「つながるミニフェスタ自然派アースデイ」等を開催しました。

新年も商品の放射能測定・情報公開を続ける一方、原発に依存しない社会への道を組合員とともに考えていきます。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長
小泉佳久

少しでもよい年にする努力を！

2011年、本当に厳しい年でした。東日本大震災では多くの方が亡くなり、福島第一原発は未だに高濃度の放射線を拡散し続けています。

2月に生協で取り組んだGMOフリーゾーン全国集会では新たに17000haの農地に「遺伝子組み換え作物を拒否する」宣言をいただきましたが、そんな努力も一瞬にして消し飛ばす原発事故でした。

経済ではギリシャの破綻危機に続き欧州全体、世界への拡がり心配されます。円高不況下の日本では景気の先行きばかりか、震災復興すら先が見えない状況です。

11月には日本の農業、環境への重大な懸念が指摘されていたTPPへの参加が政府によって表明されました。

2012年、こんな時代だからこそ生協への期待は高まっています。自給率アップへの飼料米利用、高品質な有機農産物の生産と利用の拡大、子ども達を守る放射能汚染自主検査など取り組みなければならぬ課題は山積みです。

2012年少しでも良い年にすべく努力してまいります。今年もよろしくお祈りします。

復興支援と組合員福利の増進



西宮市職員生活協同組合
事務局長
小郷勝啓

昨年の東日本大震災においては、お亡くなりになられました方々に、深い哀悼の意を表しますとともに、今なお、不自由な生活を送られている皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、わが国の経済情勢は、東日本大震災、原子力災害、さらにデフレと円高により、依然として厳しい状況が続いています。

当職員生協では、昨年、損害保険と住宅を取扱う出資子会社を、職員生協フロアーに移転させ、これに伴ない既移転誘致済みの市職員互助会、職員生協、出資子会社の3団体による連携を確立し、組合員の福利増進を強化する体制としました。

本年は、引続き東日本大震災の復興支援を行うとともに、組合員福利の更なる増進のため、なお一層努力してまいりますので、皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。

組合員とともに



兵庫県学校生活協同組合
副理事長
加賀晴彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「疾風に勁草を知る」の喩のとおり、環境変化の中で真価を問われる一年となることを心しながら歩んできた一年でした。とりわけ、週配事業からの撤退を決断した私どもにとつて、組合員との「つながり」「絆」を維持することを、また、新たに構築することを最重点課題に位置づけて取り組んだ一年でした。しかし、結果としては、週配事業を通して一緒に届けていた「安心感」や「信頼感」を組合員のニーズに沿うようには十分に届けることはできませんでした。

本年は、あらためて学校生協の理念、事業目的を再確認し、それを今日の組合員がおかれた状況の中で実感されるものとなるよう、商品で、活動で具体化していかなければならないと意を新たにしています。組合員とともにある学校生協を目指して取り組んでまいりますので、よろしく願います。

新年の抱負



神戸大学生生活協同組合
専務理事
末松泰信

年頭のご挨拶申し上げます。

今年、国際協同組合年であり、また、ICAアジア太平洋地域総会が神戸で開かれることから、協同組合に関わる皆さんと共に役割を果たし、あらためて価値と意義をしっかりと伝え切る一年にしたいと思います。

大学生協では、阪神・京都・北陸地域共同の連帯事業活動が始まった年であり、広域化による商品・物流改革の効果が、とりわけ最大の顧客である学生組合員へのサービス向上に繋がるよう積極的に参画をしていきたい、あわせて、経済的な厳しさや就職など進路への不安感が増していますので、十分にサポートできる取り組みを実践・展開したい、そんな思いで一杯です。

このように、節目の年であって、改革の年でもあります。アクティブな一年でありたい。本年も引き続き、ご指導の程、よろしく願っています。

最後に、震災とそれに関連し生じた事態は、心・物ともに未だ未だ長き時間を要することと思います。出来る限りの支援をして参りたいと考えています。



関西学院大学生生活協同組合
専務理事
高橋秀行

新年の抱負

新年明けましておめでとうございます。

昨年は三月に東日本大震災が発生し、とても悲しく辛い一年になりました。改めて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。また、支援活動に尽力されている全ての方々に敬意を表します。

閉塞感が漂い、人と人との関係もどこかぎすぎすしている昨今ですが、人と人との連帯や繋がりの尊さを再認識いたしました。

私たちの生協においても、「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神がくらしの根幹なのだということを、組合員と確認し合い、その精神の現われが私たちの事業であり活動であると確信する一年にしたいと思っています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事
衛藤昭二

新年の抱負

新年明けましておめでとうございます。

昨年5月に神戸市外国語大学消費生活協同組合の専務理事に就任させていただきました衛藤と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大学生協の経営環境は大変厳しい状況が続いております。しかしながら、厳しい状況も黙って見ていただけでは何も改善されません。私どもの生協もできる限りの経営改善を行ってきた結果、今年度は大幅な経営改善が見込めるようになりました。

ただ、今後ますます厳しい状況が予想される中、経営改善だけでは大学生協が生き残る道はないと思います。大学生協にしかできない大学や学生のサポーターの役割にも重点を置きながら、今年一年も頑張りたいと思います。

皆様のご指導・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



甲南大学生生活協同組合
専務理事
内田真紀子

新年にあたって

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。2011年度は東北地方太平洋沖地震の発生があり、改めて、絆、協同組合の精神が見直された一年でした。甲南大学生協でも、職員や学生が現地へ行かせていただき、多くのことを学ばせていただき、大きな力もいただきました。

甲南大学生協の2011年度は、大学の方針による学生数の減、数年間の設備整備、投資により厳しい損益状況となっています。安定した損益状況の仕組みづくりをすることが課題として残りました。

別の面では、大学の授業協力による新入生へ向けての商品の開発、自治会や学生団体との連携した企画、広報の充実など、組合員との距離が大幅に縮まり、「繋がって、広がるチカラ」を存分に発揮できた一年でもありました。

また、兵庫県から「仕事と生活のバランス企業表彰」をいただいた事から、誇りを持って働くことができる場として、職員の意識もよい方向に変わりつつあります。

2012年度は、2011年度の取り組みを成果として表に出していく飛躍の年です。国際協同組合年として位置づけられる今年度は、様々な方向から生活協同組合も注目されると考えられます。今の生協から将来の生協へ「想いと理念」を伝えていけるよう、守るべきものを守り、攻めるべきことを攻めながら改めて気持ちを入れ直して取り組んでまいります。

新年に



兵庫県立大学生協同組合
専務理事
東原洋二

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

明るくて、穏やかで平和な1年となりますよう願っています。しかし、学生をとりまく環境には厳しいものがあります。仕送り、アルバイト収入の減少にもより、1ヶ月の生活費は前年を割り続けています。逆に奨学金を受ける学生が増加し、約3人に1人が利用しているとのこと。でも学生達は元気で、真剣に勉強し、東北大地震ではボランティアに駆けつけ、今もその活動を何らかの形で継続している方もいます。いつの時代でも彼らは種々取り沙汰されますが、一生懸命さは変わることはありません。4年間あるいは6年間を過ごし、この社会に巣立って行きます。そんな姿を見てみると、なんとか彼らに役立つ仕事をいっばいしたいと思われたいと思います。

新年を迎えるにあたって



神戸薬科大学
生活協同組合
理事長
畑 公也

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

今年度は、薬学6年制の完成年度であり、薬科大学は昨年4月に初めて1年生から6年生までフル定員の学生を抱えることになりました。当初はとりわけ食堂のキャパシティの問題を憂慮しましたが、混雑を避けて、コンビニ弁当を教室に持ち込む等、学生諸君が賢明に対処してくれたおかげで大きな混乱もなく乗り切ることができました。また、大学当局にもこの状況にご配慮を頂き、この度新食堂と学生ラウンジの建築が決定いたしました。完成は来年春になりますが、目下その準備を進めています。学生の満足度の高い食堂、購買を目指すのは当然として、これを機に薬大生協の更なる飛躍を期して組合員一丸となって邁進する所存です。

設立20周年を迎えるにあたって



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事
今村奈星

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

神戸親和女子大学生協同組合は今年の12月で設立20周年を迎えます。神戸親和女子大学生協は兵庫県下で初めて女子大学に設立された生協です。当時の学生が自分たちのお店を作りたいということで自主的に設立運動を行って誕生しました。今、改めて当時の設立趣意書を読んでもみると、当時の学生・教職員の高い思い、生協に対する大きな期待を感じることが出来ます。

この20年を振り返って、生協はその学生・教職員の熱い思いを受け止められてきたのか、生協に対する大きな期待を裏切っていないかと、考えさせられました。設立当初と、生協を取り巻く環境は大きく変わっています。そのような中で今後も生協が支持されるよう、生協らしさ、大学に生協がある意味を発信していけたらと思います。

20年というのは、人間で言うと成人になったということ。今までは多くの方々にお世話になり、支えられてきました。これからは、今までの経験をもとに恩返しができるよう、さらに成長していきたいと思えます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



大手前大学生協同組合・
園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事
藤井貴浩

地域内連携にみるこれからの大学生協とは

新年あけましておめでとうございます。
昨年よりはじめました隣接する大学生協どうしの業務・運営連携はようやく軌道に乗ってきました。専務理事が両単協を兼任し、主に運営や総務部分をマネージメントし、各大学生協に配置した店長が現場をマネージメントする形を取っています。いわば、二つの大学生協でミニ連合組織の形態を取っています。

この業務・運営連携は、大学生協で多い小規模単協のこれからを垣間見ることが出来ます。正規職員を複数名配置することが困難な単協が増えてきている中で、「点ではなく面」で大学生協を捉え、いかに効率よく運営するかが試されます。

大学生協は全国各地で事業連合を結成し、活発に連帯活動を進めています。他の地域では、このような小規模単協対策では主に事業連合が主導して対策を進めています。神戸地区での「小規模単協同士がタッグを組んで困難に立ち向かっていく、事業連合もバックアップする」形は、ある意味生活協同組合らしい取組ではないでしょうか。

経営的には、大手前大学生協は無事累積欠損を解消し、今後の安定的な運営を模索する段階に入りました。園田学園女子大学生協は累積欠損はまだあるものの、2010年からの経営再建三ヶ年計画を着実に実行できています。また、昨年策定した「園田学園女子大学生協 ビジョンとアクションプラン」を活動指針とし、さまざまな活動を進めています。皆さまのご支援をいただき、我々の取組の成果は着実に出ています。引き続き、それぞれの大学に貢献できる組織になるべく、力強く進んで参ります。



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事
塩田恵美

学生の元気をつないでいきましよう

新年あけましておめでとうございます。

2011年は、学生の元気をつなぐ一年になったのではないかと感じています。3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震がもたらした被害は壊滅的で、今もなお多くの支援を必要としています。しかし、こうしたピンチに陥ったときに、大学生の力というのは大きな意味を持つのだと感じました。日本中で、困難に立ち向かっていく姿勢、助け合い、お互いを思いやる姿勢がありました。大学生協もしっかりと現状と向き合い、学生とともに、これからも未来のためにできることに取り組んでいきます。

甲南女子大学でも多くの元気な学生と出会うことができました。TFT (Take For Two) 委員会とともに生協の食堂でできる社会貢献活動に取り組んだり、自治会が行う献血活動に協力したり、また学生委員会も活発に活動し、留学生を支援する国際交流企画や就職活動を応援するスーツの着こなし講座など、自分たちを含む組合員の学びや成長のための活動を行いました。また、これらの団体がお互いに協力し合う場面もたくさんあり、こうしたきっかけを通して発信される学生からのメッセージが、また新しい仲間へと、活動へとつながっています。

2012年も、このつながりを引き継ぎ、広めていきたいと思っています。「社会で活躍する大学生のために今できること」という信念を持って大学生協としての役割を発揮していきます。魅力ある甲南女子大学づくりに貢献し、元気な組合員が増えていくことを願っております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事
藤本淳平

大学ではない高専生協としての再始動

新年あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は未曾有の大震災によって、日本中が哀しみと混乱に満ちた年でした。現在もなお心に傷を抱え不自由な暮らしを強いられる方が大勢いらっしゃいます。今年も引き続き生協連帯の力で少しでも日本復興を前進させられるよう当生協も取り組む所存です。

さて、話を当生協に移しますと昨年は震災の影響もあり、学生や保護者の消費意識にも変化が見られました。食堂利用を控え弁当・水筒持参で昼食を摂る学生割合が増え、購買での飲食物の利用も低下、残念ながら運営的には設立以来の苦境に立たされております。

ここで今一度、学生や教職員の「高専らしい」ニーズを拾い、大学生協をそのまま流用で当てはめるだけでなく、最適にフィッティングしていく時期に来ていると考えております。より広域になった大学生協連帯の力・知恵を拝借しつつ、組合員により一層ご支持頂ける高専生協をつくって参る所存です。

あらためて協同組合原則を意識して



生活協同組合連合会
大学生協阪神事業連合
専務理事
寺尾善喜

2012年―国際協同組合年にふさわしい取り組みの展開を、兵庫県下の大学生協として明確に意識して進めたいと思います。そして、その際の重点を協同組合原則、とりわけ第5・第6・第7原則においてみました。

まず、組合員・役員への教育・研修を推進し、とくに若者に対して、協同組合の特質やその利点についての広報活動を強化します〔第5原則〕。大学での「協同組合論」の講座運用に関わるとともに、役員員の協同組合教育を具体化します。次に、組合員にもっとも効果的に役立つための協同組合間の協同（連帯）の仕組みである、京都・阪神・北陸の3大学生協事業連合間の事業連携をさらに進めます〔第6原則〕。そして、そういった取り組みを通じて、元気な学生組合員の協同組合運営への参加が大いに進み、それを支える会員生協の事業と活動が深まり、大学コミュニティはもちろんのこと、地元の地域社会の持続可能な発展のための役割発揮（コミュニケーション）への関心、地域社会への配慮が広がり、深まるものと確信します〔第7原則〕。

2012年は健康権を守る年に



神戸医療生活協同組合
理事長
道上哲也

新年おめでとうございます。昨年おめでとうございます。昨年は50周年の節目の年でした。記念健診ではこれまでにない受診者があり、東日本大震災の被災者支援も含めたフェスティバルは、組合員と職員、地元の方々のご協力で成功させることができました。

今年は大変厳しい年となります。「税と社会保障の一体改革」の名のもと消費税が増税されようとしています。また環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）は食の問題だけではなく医療や介護にとっても見過ごすことができない内容です。たとえば混合診療が全面的に解禁されると自費診療が増え健康保険が適用される医療が狭められます。株式会社は病院経営への参入問題も同じです。株式会社は株主の損になる行動をとることはなく収益の少ない分野からは手を引いていき、国民皆保険制度が崩されてしまいかねないため私たちは反対を表明しています。大震災からの復興支援や脱原発の運動とともに重要な課題がたくさんありますが、50年にわたって積み上げてきた力で乗り切ってまいりたいと思います。今年もよろしく願いいたします。

人とつながり支えあう



尼崎医療生活協同組合
専務理事
福島 哲

あけましておめでとうございます。未曾有の被害をもたらした東日本大震災と原発事故、それゆえに日本社会の転換点として、私たち一人ひとりが決して忘れてはいけない2011年が終わり、新しい年が始まりました。

尼崎医療生協は昨年、「被災地へのコーディネート配置による被災者の直接支援」に取り組みました。尼崎から始まった支援活動は兵庫県から近畿へと拡がり、オール近畿の分厚い支援活動へと発展しました。被災者のみなさんから寄せられた「もう一度生きようと思えた」の声が、私たちに感動を与えてくださり、息の長い支援活動の原動力ともなりました。引き続き被災者のみなさんに心を寄せて、支援活動を続けていきたいと思えます。震災も原発も、私たちにとってのキーワードは「忘れない」。「人とつながり支えあう」昨年来のこのテーマを、新しい年にもしっかりと掲げて進んでいきたいと思えます。今年もどうぞよろしく願いいたします。



阪神医療生活協同組合
理事長
中村大蔵

大海嘯を乗り越え、 ヒューマンラインの構築を

昨年は東日本と紀伊半島に、大海嘯と山津波が襲った。

人智をも超える自然界の脅威に、人智の限りを尽くして救援に、支援にと全国から馳せ参じた。生協もその例に漏れず阪神淡路の時にも勝る取り組みをしている。

阪神淡路は、ボランティア元年と称された。東日本ではそのボランティア活動の成熟度が試されている。

阪神淡路を身を以って体験した私は、何の確証もなく「あれ以上の災害は、私が生きている間にはもうこないだろう」と、高をくくっていた。

その不覚を今恥じている。今回の被災地、被災者支援には悔いを残すことなく関わろうと思っている。

そしてそのことに全力を挙げることが、必ず来るであろう次の大災害に備えることになると確信する。

ライフラインに優れる、絶えざるヒューマン構築を旨とする生協活動のそれが使命だろう。



兵庫医療生活協同組合
理事長
竹本貞雄

新たな歩みの年に

厳しき中で新年を迎えました。

昨年は、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故・和歌山・奈良の台風被害・ユーロ圏の金融不安・円高・雇用情勢の厳しさなど不安な出来事が数多くありました。医療分野も例外なく厳しい状況に置かれ「安心できる医療制度」には、ほど遠い実態にあります。

東日本大震災を機に、今ほど生活の質の見直しやあたり前と思われてきた価値観の転換が求められている時はないと言えます。

兵庫医療生協は、厳しかった経営状態から健全経営になり、順調に新年を迎えることができました。本年は、順調さに甘えず、小規模医療生協であっても組合員や地域の人たちの「信頼」に応え『安心できる医療機関』として充実させていきます。そして、禁煙外来をはじめ生活の質の見直しへのサポートにも努力していきたいと考えています。「山椒は小粒」でも存在感ある医療生協をめざしていきます。



宝塚医療生活協同組合
理事長
茅野涼一

高齢者にやさしいまちづくりに 全力をつくします

新春のお喜びを申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念します。

当医療生協は、世界保健機関（WHO）が提唱し日本医療福祉生協連合会が推進する、「高齢者にやさしいまちづくり」に呼応して、昨年の生協強化月間の期間、60歳以上の組合員さんに「チェック表」を配布・回収、現在集計と分析をおこなっています。

WHOは、趣旨に賛同する自治体がグローバルネットワークに登録することを要請しています。

この取り組みは、高齢者に社会参加しやすい環境、高齢者が持っている優れた経験を、地域で大いに発揮して頂き、安心して暮らせるまちづくりをめざす運動です。当医療生協は、定款地域の自治体に参加を要請し一緒に取り組む事を求めていく予定です。

高齢者にやさしいまちはすべての人にやさしいまちでもあります。こんなまちを実現していきたいと思えます。会員生協の皆さんのお知恵をお貸しください。

今年も、組合員ご家族の健康増進に寄与できる組織として邁進したいと思います。

「事業を通じての社会貢献」をすすめます



姫路医療生活協同組合
専務理事
黒岩勝博

新年おめでとうございます。
 昨年は、3月11日に東日本大震災が発生し、人と人とのつながりや絆の大切さが再認識された1年でした。私どもも震災直後に震災支援対策本部を設置し、被災地への医療・介護職員の派遣や救援募金等にとりくみました。

当生協は、通常総代会で「人と人との支え合いですこやかに生きる地域社会をめざし、地域包括ケアを推進しよう！」をテーマに掲げ、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを推進しています。高齢者にやさしいまちづくりは、子どもや障がい者にもやさしく、また、災害にも強いまちづくりにつながると考えます。

昨年3月の小規模多機能ホーム城北の開設、7月の居宅介護支援事業所しかまの開設に引き続き、今年も、3月に福祉介護センター「てがら」と「おおつ」を開設します。地域ニーズに応え、誠実に「事業を通じての社会貢献」をすすめていきたいと思えます。

二万人の組合員の力を結集し、協同の真価を



ろっこう医療生活協同組合
専務理事
金丸正樹

新年にあたり、この一年の抱負を申し上げます。

昨年は、なんと言っても東日本大震災とその後への支援活動に組織をあげて邁進したことが強く特徴づけられた一年でした。津波被害の大船渡への半年に及ぶスタッフ派遣、そして今なお原発被害に苦しむ福島への支援活動は、十七年前の阪神淡路大震災の経験からくる職員や組合員の被災地への熱い思いが力となったものです。

そのエネルギーは、組織拡大にも連なり、念願の二万人の組合員組織の実現まであと一息のところまで到達しました。年度末にはぜひともクリアしたいと現在も奮闘中です。

今年も、こうした生協全体のちからを、引き続き被災地への支援活動につなげたいと思えますし、組織内では経営・組織の基盤をしっかりと固め、東灘区への事業展開を準備する一年としたいものです。

「国際協同組合年」をかけ声だけに終わらせず、協同組合の真価を発揮すべく力を尽くしたいと思えます。

住み慣れた地域で安心して住み続けられるお手伝いを!



たじま医療生活協同組合
専務理事
西垣 栄

新年おめでとうございます。
 本年もよろしく願っています。

昨年は3月の東日本大震災と福島原発の事故により、多くの犠牲者をだし、今なお避難生活や放射能汚染の恐怖にさらされている人々が多くおられること大変心を痛めています。私ども生協は、2004年10月の台風被害時に全国から多くの温かい支援を受けて今日があることに感謝をし、恩返しを込めて、第5次にわたる現地支援や支援募金の取り組み、福島に放射線測定器を送る取り組みなどを進めてきました。こういう時こそ生協の組合員のがんがりが大きな役割を発揮します。

「国際協同年」の今年、更に生協の仲間を大きくしなければとの思いを強くしています。

今年も医療と介護の報酬が同時に改定される年です。但馬地域は全国に先駆けて高齢化と過疎化が進行しています。この状況や組合員の要望に依拠した事業展開が求められます。

当生協は2015年に創立20周年を迎えます。そこに向けて更に大きな組織と新たな事業を計画・実現したいと検討しております。

この地域において、人々が住み慣れた所で安心して住み続けられるように、これまで以上に医療と介護の連携を強めお手伝いをしていきます。

昨年は、若い世代の組合員に向けて、子育て支援の取り組みを進めてきました。その結果、診療所の予防接種での組合員の利用結果も進みました。また、地域での要望の強いランドゴルフ交流会などにも取り組み、組合員の結集を図っています。引き続きこれらの課題をすすめるためにも職員の充実、育成、後継者づくりを重要な課題として力を入れていく所存です。



ひまわり医療生活協同組合
常務理事
酒井成美

一人ひとりが見える関係作りを

明けましておめでとございます。
昨年の3・11東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故は、パブル経済や市場競争原理に翻弄された私たちのものの考え方、生き方を根本から問い直させる契機となりました。

2000年にドイツの緑の党と社会民主党の連立政権が脱原発を決め、2022～23年を脱原発の期限に定めたというニュースを聞いたとき、原発廃止のためには日常生活の不自由をも厭わないドイツ国民はすごいな、日本人にはとても無理だろうと思っただけでした。

しかし「3・11」以降、私たち日本人も、それが不幸な天災と人災とに強いられたものとは言え、原発に依存しない生き方、地域の人と人との繋がりを大切にする生活、地元産業を大切にすることを取戻そうとしています。

医療生活協同組合は、健康・医療・介護の面で人と人との繋がり、助け合いを基軸にした組織です。今後ますますその真価が問われることとなります。

私たちひまわり医療生協も、微力ながら、組合員や地域の人たち一人ひとりの生きてきた道のり、今の生活が見える関係を作る中で、健康に快適に幸せに生活するお手伝いをしたいと思っています。



神戸市民生活協同組合
専務理事
小野田敏行

新生・神戸市民生協へ向けて

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

当生協は、本年、創立57年を迎えることとなります。火災共済事業からスタートした当生協は、組合員の皆様の生活文化の向上を目指して、観光、住まい、異人館管理等、幅広い事業を行ってまいりましたが、来年4月からは、創立当時の原点に帰り、共済事業のみを推進することとなります。

共済事業を取り巻く環境は、少子高齢化や経済の低成長、保険業との同質化等厳しいものがありますが、これまで以上に、「支えあい・助け合いの市民共済」の基本理念のもと、地域に根ざした市民生協として事業活動を展開してまいります。

本年は、国際協同組合年の年でもあり、安全・安心な暮らしのための備え「相互扶助の精神」が、これまで以上に注目されることとなります。

当生協は、本年を「新生・神戸市民生協」へ向けて飛躍する年と位置づけ、これまでの豊富な経験を生かし、職員一同、努力していく決意であります。



尼崎市民共済生活協同組合
常務理事
小寺敬二

年頭に当たって

新春のお喜びを申し上げます。

昨年は、「水の災害」の年でした。3月11日マグニチュード9の東日本大地震が発生し、未曾有の地盤の揺れと大津波により、都市基盤の壊滅と大量の放射能物質の放出を伴う原子力事故が発生した。

また、9月には、紀伊半島に記録的な豪雨をもたらした台風12号、更には、10月初めよりタイ中部を中心に洪水が発生し、タイ国民をはじめ、数多くの日系企業の工場が操業停止に追い込まれるなど甚大な被害をもたらした。

今は亡き関西を代表する喜劇役者が、「自己の生き方に、漢字一字を選ぶとすれば『私はさんずいを嫌い、しんにょうを好む』、何故なら、さんずいは、沈む、滞る、滅する等に対して、しんにょうには、進む、運ぶ、造るなど前向きな漢字が多いから好きだ。」と述べられたとの記憶がある。

本年は、国際協同組合年である。協同組合の「人と人を結びつけ」、生命と財産を守る私共の共済活動の役割・意義を真摯に見つめ直すとともに、国際年のスローガンである「協同組合がよりよい社会を築きます」のもと、新たな「進み・運び・造る」取組に邁進したい。

「希望が持てる年であること！」を願って



姫路市民共済生活協同組合
理事長
藤田雄三

新年明けましておめでとうございます。
昨年を振り返りますと、非常に多難な事が多い年でありました。

大震災の発生を始めとして、タイの水害による日本企業への影響、更には急激な円高に伴う経済への影響等々、多難な年であったと感じております。

生活を取り巻く社会環境は、日々変容しており、なかなか「安心した生活の確保」には至らなかったというのが、実感ではなかったでしょうか。

そのような状況下においても、将来に夢を持てることもございました。

それは、大震災では、「助け合いの気持ち」「思いやる気持ち」による支援が全国に広がったことであり、将来への希望が感じられた事であります。

みんなで助け合う事が、いかに大切であるかを実感させられた年でもありました。

新年を迎えるにあたり、私達姫路市民共済生協は、今年の干支の辰にちなんで、「竜のように勢いのある年に」「夢のある年に」の実現を目指し、「助け合いの輪」を更に広げるべく役員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

新年に思う



西宮市民共済生活協同組合
常務理事
河村英三

新年あけましておめでとうございます。

昨年は震災・原発被害への対応や、ユーロ圏の財政金融不安からの円高不況、大阪首長選での「民意」、TPP問題等考えさせられる出来事が続きました。

特にTPPに関しては、共済団体にとっても、その経営財務体質・破たん処理への対応・税制見直し・割戻制度等に関して、否応なしに変革が求められるのではと危惧しているところ です。

しかし、今も昔も共済に求められているものといえば、「いかに組合員の生活リスク解決のための相談に応えられるか」ということではないでしょうか。そしてこのことが共済存続・発展のキーワードである事は間違いありません。

西宮市民共済では、地域共済の使命を再確認し、日常の顧客相談業務に加え、防火防災訓練・交通安全行事・市民祭りなどの地域イベントに積極的に参加し、幅広く市民・組合員・職員の交流を図りながら事故の未然防止と組合員の支援に役立ちたいと願っております。

本年も皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

新年を迎えて



兵庫労働共済生活協同組合
理事長
酒井行雄

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、甚大な犠牲と被害をもたらした東日本大震災を始め、台風12号・15号など大規模災害が多発した年となり、兵庫労済も被災地支援のため多くの職員が現地に入り、可能な限りの活動に取り組んだ一年でした。

また、日本経済を取り巻く環境は、超円高状態が継続しており、輸出産業を中心に厳しい経営の舵取りを余儀なくされている企業も多く、この状況はしばらく続くものと想定されています。

一方、共済を取り巻く環境は、先行きの不透明感や社会保障領域の不安を主要因とする消費マインドの落ち込みの影響を受け、団塊世代の退職以降の低迷が今も続いています。

このような状況を打破するために、兵庫労済（全労済）としても各種施策を展開していますが、思うような結果が出ていないのが現状です。

そのような中で私たちは「国際協同組合年」を迎えました。協同組合は、経済と社会がグローバル化する中で、地域社会に根ざし人々の助け合いを促進することによって、生活を安定させコミュニティを活性化させる役割を持っています。

閉塞感が漂い明快な道標がない現代社会において、今一番大切な事はこの役割であり、それを実践する事だと考えており、兵庫労済役員はこの使命を心に刻みながら、今年一年、運動を強力に推進する決意です。

本年も、引き続きご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



近畿労働兵庫兵庫地区
統括本部本部長
大槻信夫

『共助・共生社会の実現』で 働く人達の生活と夢を叶える

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、東日本大震災や台風など自然災害が各地に大きな被害をもたらしました。
被災者に対する支援の輪が広がり、『絆』を強く意識した行動も広がってきました。
近畿ろうきんは、十七年前の阪神淡路大震災の経験から、復興には長期支援が必要であり、あの時の全国から頂いた支援に感謝する具体的取り組みとして、東日本大震災復興支援定期『サポートV』を提案しました。

『サポートV』は、定期預金の利息の約半分を提携頂き同額をろうきんも拠出して、被災者支援を続ける二つの団体に十年間寄贈します。
労働組合を始め多くの個人の皆さんの賛同を得て支援し続ける仕組みが出来つつあります。
『共に助け合い共に生きる社会』の実現は「人々が喜びを持って共生できる社会」であり、ろうきんは本来の活動を通じてそれを叶えたいと思っています。

困難な時代だからこそ、協同の理念を大切に、働く人達と連帯して、がんばりたいと思います。

本年も旧来よりのご支援・ご愛顧を引き続き賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



JA全農兵庫県本部
県本部長
西畑義明

生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋に

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平素は、県内農畜産物をご愛顧いただいていますこと、厚くお礼申し上げます。
また、東日本大震災、原発事故、集中豪雨等により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

本会は、「日本農業・地域社会を守り発展させること」「安全・安心な農畜産物を消費者の皆様にお届けすること」を基本的な使命として事業に取り組んでいます。

昨今の農業をとりまく環境は、食料自給率の低迷や長引く不況の影響により、農家経営が厳しい状況が続いており、国産農畜産物の消費拡大に向けた取り組みの強化が求められています。また、東日本大震災による原発事故以降、消費者からはこれまで以上に食品に対して「安全」「安心」が求められており、さらに昨年末にはTPP交渉参加に向けた関係国との協議入り表明されるなど、日本農業は今、厳しい局面に立たされています。

こうした情勢のもと、私たち全農グループは、「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります」という経営理念を掲げ、国産農畜産物の販売力強化を基本戦略とし、「安全で新鮮な国産農畜産物の提供」に取り組んでまいります。

消費者の皆様への負託にこたえるべく、今後とも一層の努力をまいりますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(以上、敬称略)

2011年度 兵庫県生協連・第3回理事会報告

- I. 開催日時 2011年12月5日(月)午後3時～5時
- II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」
- III. 出席者 本田会長理事、寺尾副会長理事、大西専務理事、板崎、高橋、福島、大槻、新保、伴、大沼、井上、小野田、酒井(以上、理事) 藤田、金丸、秦(以上、監事)

〈協議事項〉

- (1) 兵協連2012年度活動計画について
- (2) 兵協連2012年度主要行事スケジュールについて
- (5) ひょうご消費者セミナー2011の開催内容について
- (6) 兵協連第4回大規模災害対策図上演習開催(案)について

〈報告事項〉

- (1) 「会員生協の概況報告」各出席役員より報告
- (2) 前回理事会～12月初旬までの兵協連諸行事・諸活動報告
- (3) 2011年度兵協連上期決算報告・監査報告
- (4) 2011年度兵協連研修実施報告と計画(案)
- (7) 2011年度兵協連役員体育大会開催報告
- (8) 兵庫JCC幹事会開催報告
- (9) 2012年国際協同組合年の取り組みについて
- (10) 2011年度生協間連帯・実態調査結果報告
- (11) 兵協連2011年度12月-3月行事スケジュール
- (12) 兵協連第3回生協対策資金貸付審査会開催報告

「考えよう！食と環境」をテーマに 食にかかわるグループが活動を発表



ゲームをしながら楽しく学んでいます



熱心に耳を傾ける参加者

12月3日(土)、生活文化センターで「第3回コープ食育フェスタ」が開かれ、約400人の参加者でにぎわいました。

2階ホールに設けられたブースには、食育くらぶやEARTHくらぶ、クッキングサポーターなどが、試食やクイズ、ゲームを交えて、それぞれの活動を紹介します。参加者は、クイズラリーに挑戦しながら、ブースを楽しんでいました。『播磨もん』と題したブースでは、コープスひょうご

発シリーズの「姫路れんこん」をオーブンレンジで焼いた「れんこんチップス」を紹介。親子で参加した組合員の一人は「野菜ぎらいの子どもたちが、たくさん食べるので驚いています」と話していました。

また、午後からは、NPO法人こども環境活動支援協会の小川雅由さんをコディネーターに「食生活の変化と生産のつながり」と題したパネルディスカッションが行われました。生産者の立場から漁業と農業の取り組みが、消費者の立場からコープこぶの取り組みが紹介された後、参加者は「『食』と『生産』のつながり」、「次世代に伝えたい『食』」にまつわる大切なことをグループで話しあいました。

(通信員 榎原由子)

講演会「ごはんを食べて 子どもの健康と未来を守ろう！」

12月2日(金)、神戸大学名誉教授・保田茂氏を講師に迎え講演会「ごはんを食べて子どもの健康と未来を守ろう！」を開催しました。

日本人は昔むかしから稲作をし、お米を食べて生きてきました。私たち日本人の体に合った食べ物が、なぜ「ごはん」なのかよくわかるお話を次々と聞かせていただきました。

お米が育つ田んぼは、お腹いっぱいにするだけではなく、多様な生き物も育むところ。お米の消費が減っては、田んぼは荒れてしまいます。日本の農業を守るためにも、ごはん食が要(かなめ)だと学びました。

子どもにとっての幸せは健康で元気に暮らせること。子ども自身の健康はもちろん、大人も老人も健康でいることが、子どもの幸せです。

体にあつた食べ物(お米や野菜)が地元で生産でき、消費者に届くシ

ステムIIコープ自然派兵庫の活動が、子どもの幸せと日本の未来を守ることにつながる！そんな思いが高まる講演会でした。

(理事 上崎和子)



甲南女子大学生生活協同組合

生協還元祭【楓祭】を

開催しました！



約100名の参加者が集いました



作る楽しみ、食べる楽しみ

昨年11月7日～18日に、生協学生委員会が楓祭を行いました。毎年、紅葉の美しい時期に行う祭り、「今」の甲南女子大学生はどんなことに興味があるのか？また、学びや成長のためにどんなことができるか？という趣旨で取り組みます。2011年度は【未来（あした）のためにできること～Change yourself～】というテーマで二週間、毎日さまざまな企画を行いました。共済の予防提案活動として行う恒例の食生活相談会や骨密度測定などの【健康チェック】に、今回は運転シミュレーターを取り入れ、運転体験をしながら事故防止の呼びかけをしました。参加者には食生活のアドバイスと



「～光輝く私を～」をテーマにメイク講座

もに生協食堂の小鉢プレゼント券や野菜ジュースを配布するなど、健康について意識するきっかけになったと思います。また、はるやま商事株式会社の協力を得て、就職活動生のための【スーツの着こなし&メイク講座】を行い、約100名の学生が参加しました。スーツやブラウスがもらえるゲーム企画なども取り入れ、楽しく学ぶことができました。他にも、料理教室、手作りリッツ&バック体験などの女子大らしい企画も行い、いつかは社会に出る大学生が「未来のためにできること」というテーマの通り、今より少し成長する、今より少し楽しくなる、そんな企画がたくさんできたのではないかと思います。自治会や放送部、TFT委員会など、多くの学内団体の協力も得て広報や企画を行うことができ、参加者にとっても多くの交流と学びのある楓祭となりました。

（専務理事 塩田恵美）

尼崎医療生活協同組合

池永満弁護士を招き、学習会に11名参加 組合員と職員が共に学び・考えあう学習会



「病気・健康を問わず、医療・福祉サービスを利用するもの」というWHOの患者の定義が紹介され「地域住民も組合員も医療従事者も患者であり、患者イコール市民、患者の権利とは市民の権利」との視点に立ち、組合員・職員が医療を

尼崎医療生協では12月10日(土)、NPO法人患者の権利オンブズマン代表で弁護士池永満氏を招き「組合員と職員がともに考える「患者・利用者の権利」「患者・利用者の安全」学習講演会」を開催しました。会場の生協病院職員食堂から溢れ出さんばかりの参加者は組合員53名・職員55名、合計111名にのびりました。

協同で形作っていく事こそが患者利用者の権利・安全を守る事になるとの指摘があり、組合員・職員共に医療生協への確信が持てた学習会になりました。

また、患者は生半可な知識を持つのでなく専門家から、くまなく情報を引き出し、専門家は情報開示し患者が幸福を追求する視点で自己決定できるように、医療情報の共有に努め、真の自己決定を支援する「患者の生き方選択の支援」を行う、そういった営みこそ患者と医療の専門家のあるべき姿であるというお話に「なぜ」と聞くことの大切さを学びました（組合員）「私たち医療者はどうしたらいいのか？考える機会になりました」（病棟看護師）との感想が寄せられました。

患者の権利・安全、ひいては患者・組合員と職員が協同で行う医療・福祉サービスを共に考えあう最初の小さな一歩であり、同時に大きな一歩となりました。

（通信員 福井勇氣人）

姫路医療生活協同組合

開設準備すすむなか、

イベント『てがら介護フェア』を開催

11月19日(土)に姫路市勤労市民会館で『てがら介護フェア』を開催しました。姫路医療生協の介護・医療事業を実際に見て、体験して、知っていただくイベントです。会場は建設中の『福祉介護センターてがら』の地元地域にあります。

福祉用具レンタルの展示、介護食・きざみ食の作り方実演と試食、訪問入浴の実演、内視鏡を使用した嚥下のしくみの説明、介護予防のための「棒体操」など、各事業所の工夫を凝らしたコーナーに、多くの来場者が集まりました。支部・ブロックの協力による健康チェック、おりがみ教室も人気でした。休憩コーナーの姫路名物『駅そば』の出張屋台の温かいおそばのサービスも喜ばれました。

当日はあいにくの雨でしたが、150名の参加者があり、「来てよかった」「介護の相談ができた」などの感想をいただき盛況のうちに終了しました。

(通信員 岡田佐織)



ひまわり医療生活協同組合

新経絡ひまわり(ツボ押し)会を開催

ひまわり医療生活協同組合田島診療所では、昨年11月から新たに「ツボ押しのお会」(毎週月曜日昼12時30分から)をはじめました。この会では、簡単に行なえるツボ押しにより、肩凝りや腰痛など日ごろの不調やつらい症状を「ご自宅」「ご自分や



ご家族で」緩和する方法を参加者みんなで学んでいます。参加者が自分で、時にはお互いにツボを「押し合いつこ」し気楽に質問なども飛び交う和やかな会です。

もとは新経絡療法という治療法で、多様な疼痛や疾患に効果があり押し棒などで押しますが、この会では器具を使うことなく参加者ご自身の指でツボを押ししています。毎回、身近な症状をテーマにして簡単に効果的な方法を実践することで、誰にでもできると好評です。参加者の皆様は、熱心に自分にあつたツボを覚えてお帰りになります。

自宅でのケアで体の不調を改善したり、深刻な症状があらわれる前に食い止めたりするこの方法は、ご自分や家族でできる点でも重要です。ひとりひとりが健康に明るく暮らすための方法をみんなで学ぶ会として、これからも続けていきたいと思えます。皆様、お気軽にご参加ください。

(通信員 竹西朝子)

協同組合のかけ橋

JA 兵庫県漁業協同組合連合会

「漁師さんのおさかな教室」 好評でした！！ ～今年は明石市の土山保育園で～



元気な挨拶で始まった「おさかな教室」 大角会長の包丁さばきに皆さんの視線が…

“魚をもっと食べてもらおう”と摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角生馬会長）では「おさかな教室」を開催しており、今年はその3回目。場所は明石市の土山保育園で、園児の親子12家庭（約30名）が参加し開催されました。

当日は漁青連のメンバーに加え、県・系統団体スタッフが加わり、料理の下ごしらえやタッチプールの準備を進めた後、園長先生の声と共に子供たちの元気な挨拶でスタート。料理教室では、まずアジの捌き方の講習があり、講師となった大角会長の包丁さばきに参加者は注目。アジの内臓を出したり、頭を落としたりする度に子供たちから「わあ～！」「きゃあ～！」の大合唱！お母さん達は大角会長の軽快なおしゃべりにうなづく場面もしばしば。続く調理実習では、親子でアジの「お魚ハンバーグ」に挑戦しました。なかには包丁を初めて持つ子どももいましたが、スタッフの手伝いやお母さんの活躍もあり、皆さん、無事に完成させていました。

次に、教室の外に設置されたタッチプールにアジ、イダコ、エビなど沢山の魚が、また、ガザミ釣りのプールのたくさんさんの大きなガザミに、子供たちは少々興奮ぎみ。最初は怖がっていた子供もいましたが、だんだん楽しくなったのでしょ、最後には見事に手づかみしていました。

最後に、調理したお魚ハンバーグとタコ飯、ガザミの味噌汁も添えて試食した後、子供たちから魚に関する質問が次々にあって終了しました。参加のお母さんは、「普段魚を食べない子どもが、お魚ハンバーグを残さず食べた」と驚いた様子で話されるなど、子ども達やお母さん方に大好評の教室でした。



調理を楽しんでいますね



上手に捕まえました！

JA 兵庫県農業協同組合中央会

県内初 女性組織が 日頃の活動の成果を発表

兵庫県JA女性組織連絡会は12月2日、JA兵庫みらい本店のJA会館で兵庫県JA女性組織活動交流会を開きました。これは県内JA女性組織が相互に特色あるグループ活動の成果を発表し交流を深めるもので、兵庫県内では初の開催となりました。県内のJA女性組織会長などが集まる会議の中で「活動発表の場を設けることでさらに活動を活発にしていきたい」という声があがり、今回の交流会の開催につながりました。

当日は約200人が参加し、9つのJA女性組織がそれぞれ体操や、踊り、太極拳、コーラス、手作りの衣服でのファッションショーなど日頃の活動の成果を発表しました。中にはユニークな劇を発表する女性組織もあり、会場で歓声があがりました。最後には、参加者全員が輪をつくり、総踊りをして交流会を締めくくりました。



舞台上で踊りを披露する参加者



〈くらしのほっとライン〉

高齢者の消費生活トラブル

～未公開株や社債など投資話の二次被害～

事例

5年前に「上場予定の未公開株を購入しないか。上場すると値上がりは確実」と電話で勧誘され、購入したが、結局上場せずそのままになっていた。先日、別の事業者から1株9万円、総額2,070万円で買い取るので、1割の207万円を保全金として支払うよう言われた。信用できるのか。

【アドバイス】

未公開株を巡っては、「近々上場し、値上がり確実」「絶対儲かる」などと説明されて購入したが、上場しなかったという相談が寄せられています。この他、「社債を高額で買い取る」「必ず高く転売できる」と言われ、購入したが発行会社が倒産し、全損したという被害も発生しています。

事業者からの買い取るという電話には、耳を貸さないで、見知らぬ業者が自宅の電話番号を知っていることを疑ってください。

事例のように、過去の被害の話を持ち出し、「〇社の社債を購入すれば、売れなくなった未公開株を購入してあげる」などと新たな投資を持ちかけたり、未公開株の売却にあたって高額な手数料を要求する二次被害も発生しています。中には、消費生活センターや公的機関、証券会社等を名乗るケースも見られます。

買い取りが実行されることはまずありません。お金を支払ってしまうと取り戻すことは極めて困難です。すぐにお金を支払わないようにしましょう。

以前投資トラブルにあった人は特に注意してください。また、高齢者のトラブルが多いので、本人だけでなく周りの人も注意が必要です。

(兵庫県生活科学総合センター 078-303-0999)

ひょうご消費者セミナー2011

携帯・ゲーム機・インターネットに潜む危険 ～大切な子どもが傷つかないために～

携帯電話・ゲーム機・インターネット……

子どもたちが接する情報機器は多様ですが、機器の適切な使い方を知らないために、さまざまなトラブルや犯罪に巻き込まれる危険が増えています。

第1部では、兵庫県情報セキュリティサポーターの篠原嘉一さんに、情報機器との上手な付き合い方や、親や地域の人が子どもの様子を見守ることで、ネットの被害者にも加害者にもならない社会をつくることを、具体的な実例をあげながら講演いただきます。

第2部では、消費者被害の拡大を防ぐ「消費者団体訴訟制度」や、検討がすすめられている新しい消費者被害救済制度について、寸劇を交えて分かりやすく紹介します。



◆と き：2012年3月14日(水) 午前10時～12時30分

◆と ころ：兵庫県農業共済会館（JR元町駅より徒歩10分）

◆内容

〈第1部〉

講 演：「携帯・ゲーム機・インターネットに潜む危険
～大切な子どもが傷つかないために～」

講 師：篠原 嘉一さん
（兵庫県情報セキュリティサポーター）

※「兵庫県情報セキュリティサポーター」とは
「ひょうご情報セキュリティ推進会議」（兵庫県と諸団体で構成）で
情報セキュリティ対策を推進するサポーター制度のこと。



〈第2部〉

テーマ：「新たな消費者被害救済制度について
～消費者団体訴訟制度とともに～」

寸 劇：大阪大学学生劇団「ちゃうかちゃうん」

◆参加費：無料（定員160人。お早めにお申し込みください）

◆締 切：3月2日(金) ※定員になり次第締め切ります

◆申し込み方法：兵庫県生協連合会までお電話でお申し込みください（電話：078-391-8634）

◆主 催：コープこうべ、兵庫県生協連合会、消費者支援機構関西、ひょうご消費者ネット

◆後 援：兵庫県・神戸市

県連日誌

1月7日(土) 新春トップセミナー(県民会館 福)

賀詞交換会 (県民会館 鶴)

1月12日(木) 2012国際協同組合年

宣言イベント・キックオフ大会

(兵庫県農業会館大ホール)

1月19日(木) 20日(金)、24日(火) 26日(木)

初級経理学校

(県民会館 10001ほか)

1月27日(金) 兵協連 大学生協部会

(大学生協神戸会館)

1月31日(火) 生協活動委員会(県民会館 ばら)

編集後記

寒い毎日の合間のうららかな昼下がり。お弁当を持って、近くのちよっと芝生のあるベンチへ。座ってお弁当のフタを開けたとたん！クロと茶とコゲ茶の3匹のネコたちに囲まれてしまいました！「ミャー」と鳴いて私の顔を見上げる3匹。「ゴメンネ。警備のおじさんがジッと見ているので、あげられないのよ(汗)」と思いつながら、慌ててお弁当を食べたので、どこに消化されていつていいのかかわらない……。おまけに、そんな私の状況を子どもと一緒に通りがかったお母さんから「飼ってるんですか？(笑)」なんて話しかけられて、「いえ、フタを開けたら囲まれてしまった……」と笑顔で説明することになりました。今年もネコだけだけでなく、たくさんの人と、みなさまからのお便りに囲まれたい！と思っています。2012年も、みなさまにとつて良い年でありましたように……。今年も兵協連と「兵協連だより」をよろしくお願ひいたします。(中尾)

お詫び

本誌12月号6ページ「兵庫県生協連・役員員体育大会で交流」トナメント表の決勝戦の点数が「3-0」とすべきところ誤って「3-2」になっていました。お詫びし、訂正させていただきます。